

第3学年A組 体育科学習指導案

授業者 高橋 亨
研究協力者 佐藤 靖
教材分析協力者 伊藤 恵造

- 1 単元名 ゴールを目指せ 自分の力で！チームの力で！
～ハンドボールを基にした易しいゲーム～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

体育が好きで、学習に意欲的に取り組むことができる子どもたちが多く、2年生ではボール投げゲームや的当てゲームを経験しており、簡単な規則で行われる易しいゲームに楽しく取り組んだ。その結果、運動に対しての意欲は高まっているが、基本的なボール操作がまだ不十分であったり、攻守入り交じったゲームの経験が不足していたりする実態がある。

3年生での体育学習で本単元の前に行った、A体ほぐし運動のイ「多様な動きをつくる運動」では、基になる動きを工夫したり、動きを組み合わせていたりするなどして、グループで話し合いながら学習を進めることができた。しかし、ゴール型ゲームの学習を通して型に応じた簡単な作戦を選んだり、立てたりした経験はない。

(2) 単元について

本単元はハンドボールを基にした易しいゲームである。個人のスキルをあげながら、仲間と力を合わせ、パスをつないでシュートをすることで楽しさを味わうことが期待できる。

ハンドボールは手で、手頃な大きさのボールを扱うので、子どもたちはあまり抵抗を感じること無く運動に取り組むことができる。3年生は初めてゴール型ゲームに出会う学年である。ハンドボールを通してゴール型ゲームを学習することで、基本的なボール操作や、ボールを持たないときの動きを効果的に身に付けることができると考える。

本単元では、特に基本的なボール操作を身に付けることに重点を置く。様々なタスクゲームを通して、基本的な技能を身に付けながら、子どもたちが気付いたコツや、簡単な作戦等について共有しながら学習を進めていく。最終的にシュートに結び付け、仲間と協力して点数をとる楽しさを味わうことで、**ボールをもったとき、ゴールの方を見たり、味方にパスをつないで攻めたりする資質・能力**を高めることを目指す。

(3) 指導について

本単元で資質・能力を高めるために、**基本的なボール操作（シュート・パス・キープ）に着目して、動きのコツを見つけてプレーするという「見方・考え方」**を働かせた学習活動を位置づける。

子どもたちが基本的なボール操作を身に付けることができるようにするために、毎時間の初めの段階で、ボールを使った運動を行う。また、単元の前半ではタスクゲームの時間を十分に保障する。そこでは、子どもたちが動感に気付けるようなゲームを教師が意図的に設定し、子どもの言葉で動きのコツをたくさん見付けられるようにする。見付けた動きのコツは常に掲示し、教師が適宜確認することで、子どもたちが意識できるようにして、後半で行うハンドボールを基にした易しいゲームで活用できるようにする。

後半のハンドボールを基にした易しいゲームでは、タスクゲームで見付けたコツを、子どもたちが簡単な作戦として使うようにする。ゲームの中で簡単な作戦を実際に試すように促して、チームで協力しながらゴールに向かう楽しさを味わうことができるようにする。ゲームの中で自分達の見付けたコツ（簡単な作戦）を活用できたかを視点にしたふり返りの時間を大切にして、次の学習につなげるようにしていきたいと考えている。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 基本的なボール操作を身に付けボール操作の技能を高めたり、チームで攻めていく攻め方を理解したりすることができる。 (ツ-d-1)
- (2) ゴール型ゲームに応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝え、話し合いながら学習を進めることができる。 (b-13・14)
- (3) 運動に進んで取り組み、ルールを守り、チームで協力しながら楽しくゲームに取り組むことができる。 (a-1・2・3・5)

4 単元の構想（総時数8時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

E ゲーム ア ボールゲーム 「的当てゲーム」「シュートゲーム」（2年）

◎本単元で育む主な資質・能力
 ボールをもったとき、ゴールの方を見たり、味方にパスをつないで攻めたりする。

○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
 基本的なボール操作（シュート・パス・キープ）に着目して、動きのコツを見つけてプレーする。

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価（本校の資質・能力との関連）
1	(1) オリエンテーションを通して、学習の見通しをもつ。 ・どんな学習をしていくんだらう？ ・これから行うゲームが楽しみだ。	・見通しをもって学習に取り組むことができるように、全体計画を掲示してこれからの学習について確認する。その際、子どもたちと課題を確認しながら、授業で行うタスクゲームを選択していくことを伝える。 ・次時から行うタスクゲームのルールを確認して、実際に試す時間を設ける。	・学習の進め方を知り学習の見通しをもつことで、ハンドボールへの関心を高めている。〈a-1〉
学習課題： タスクゲームを通して基本的なボール操作を身に付けたり、ゲームに生かすことのできるコツを見付けたりしよう。			
2 3	(2) 基本的なボール操作を身に付けるために、タスクゲームを行う。 ・ボールはしっかりつかむと捕ることができる。 ・ボールの投げ方を工夫するとパスがつながる。 ・ボールをもらう人は、もらえる場所に動くといい。 ・ゴールの方向に走ると攻めることができる。	・基本的なボール操作を身に付けることができるように、パスゲーム等の基礎ゲームを取り入れる。 ・ゴールに向かって進む意識をもつことができるようにするために、カウントゲーム等の予備ゲームを行う。 ・どのようにしたらうまくプレーすることができたのか、見付けたコツを共有できるように話合いの場を設定し、コツを子どもたちの言葉でキーワード化する。	・タスクゲームを通して、基本的なボール操作を高めている。〈ソ-d-1〉 ・上手にプレーするためのコツを見付け、友達と話し合っている。〈b-13〉
学習課題： 見付けたコツを試しながら、チームで協力してゴールに向かって攻めていこう。			
4 5 6 本時	(3) 個人やチームでコツを試しながらゲームを行う。 (攻守入り交じり4対4 試合時間 4分) ・今日はパスのコツを使ってみよう。 ・パスを工夫してゲームをしよう。 ・ボールをもらう時にゴールに向かって走ろう。	・子どもたちがキーワードを確認することができるように、前時までにたキーワードを掲示する。 ・ゲームの中でどのコツを試すか選ぶことができるようにするために、前時までの活動をふり返りながらコツの確認を行う。 ・コツを意識しながらゲームができたか確認するために、ゲーム1の後に、話合いの時間を設定しゲーム2のコツを確認する。 ・次時の学習活動の見通しをもつことができるように、自分たちができたこと、できなかったことを明確にしてふり返りを行うように助言する。	・めあてを明確にもってゲームに進んで取り組んでいる。〈a-2〉 ・自分やチームで選んだコツを意識した、プレーをしている。〈ソ-d-1〉 ・ゲームでのプレーについてチームで話し合い、お互いの意見を認め合っている。〈a-5〉
7 8	(4) まとめのゲームを行う。 (総当たり戦 試合時間4分) ・ゲームでできるようになったコツをつかって攻めよう。 ・チームで協力して点数をとろう。	・これまでの学習を活かし、さらに高めることができるように、チームで選んだコツにあった動きを見付け称賛する。 ・動きのコツとして見付けたボールをもらうための動きが、サッカーやバスケットボールの学習につながることを確認する。	・規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたりしながら進んで運動に取り組んでいる。〈a-2.3〉

E ゲーム ア ゴール型ゲーム 「めがせ」リーガー（3年）
 「作戦を立ててハンドボールを楽しもう」（4年）

(ソ-d-1)

5 本時の実際 (5 / 8)

(1) ねらい

ボールをつなぐために見付けたコツを試しながら、チームで協力してゴールに向かって、攻めていくことができる。 (ソ-d-1)

(2) 展開

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
5分	① 基本的なボール操作の練習をする。 ・ ボールを落とさず、しっかりつかもう。	・ 基本的なボール操作を身に付けるために、前時までの学習の様子を踏まえ、必要なタスクゲームを行う。
2分	② 前時までの学習をふり返り、学習課題を確認する。 ・ 昨日成功したコツをもう1度試してみよう。 ・ 今日は新しいコツをゲームで試そう。 学習課題	・ ゲームで使うコツ (簡単な作戦) を決めることができるように、前時の学習の様子をふり返り、課題を確認する。 ・ 兄弟チームでお互いにアドバイスできるようにするために、お互いのコツ (簡単な作戦) を確認する場を設ける。
みつけたコツをつかって、ゴールをめざそう。		
13分	③ ゲーム1を行う。 (攻守入り交じり4対4) ・ パスの仕方を工夫してゲームをしてみよう。 ・ ボールをもらうときは合図を出してみよう。	・ ゴールに向かって攻めていく気持ちをもたせるために、「前へ」というキーワードをおさえ、前に攻めていく意識を確認する。 ・ ゲームへの意欲を高めるために、ゲームの中で見られた課題を意識した動きを見付け、適宜、称賛する。
7分	④ チームごとに試合のふり返りをする。 ・ パスの工夫ができていた。 ・ 合図はあんまりなかった。 ・ パスをつなげるためにどうしたらうまくできるかな?	・ コツ (簡単な作戦) を意識しながらゲームができたか確認できるように、兄弟チームや自分のチームで話し合う時間を設定する。 ・ ゲーム2で取り組むコツ (簡単な作戦) を決めることができるように、兄弟チームからもらったアドバイスをもとに話し合う。
13分	⑤ ゲーム2を行う。 ・ パスを工夫してシュートにつなげよう。 ・ 合図をもっと使ってもらい方を工夫しよう。 ・ ボールをもらう時にゴールに向かって走ろう。	・ ゲームへの意欲を高めるために、ゲームの中で見られた新たなコツ (簡単な作戦) を意識した動きを見付け、適宜、称賛する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 見付けたコツをゲームで試しながら、ゴールに向かって攻めている。 (ソ-d-1) (行動観察 学習シート) </div>
5分	⑥ 本時の学習をふり返る。 ・ 今日はパスのコツを使えたから明日は別のコツを使ってみよう。	・ 兄弟チームや、同じチームの友達のよさを実感したり、次時の課題につながるふり返りを確認したりすることができるようにふり返る場を設ける。